

THE MATHEMATICAL SOCIETY OF JAPAN

日本数学会

MATHEMATICAL
OF JAPAN

<http://mathsoc.jp/>



日本数学会 理事長
寺 友 秀
President
Tomohide Terasoma
(撮影:河野裕昭氏)

数学会が受け継ぐもの

当会、一般社団法人日本数学会は、1877年に前身である東京数学会社が設立されて以来、いくつかの形態を経て、今日の一般社団法人にいたっているわけですが、発足当時から一貫して数学の研究者の情報交換の場としての役割を果たし、数学あるいは数理科学の発展と振興の一翼をになってきました。その間、大学あるいは研究所をはじめとする教育、研究をとりまく環境も世の中の流れとともに大きく変化してきており、数学者や数学会が社会から求められる描像も刻々と変化してきております。

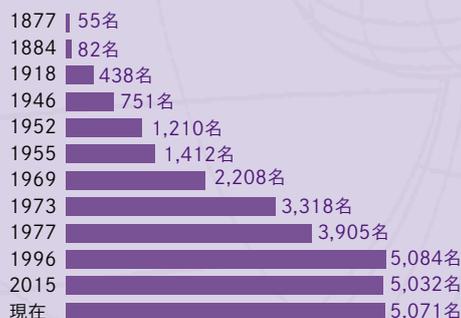
とくに、1990年代の大綱化に象徴される大学改革においては、多くの大学により、大学院が拡充され、それにより、学者と研究、学生そして社会とのかかわり方も変化してきました。昨今よく耳にするSDGsなど、世の中が変われば、言葉も変わり、言葉が変われば、人の意識も変わります。もちろん私たち数学者たちもその流れについていかざるを得ないわけですが、そういった流れの中にあって数学者たちの変化の度合いは、他の科学に比して緩やかである印象をうけます。それは数学者は概して物事の本質は何かというのをじっくり考える習性によるものではないかと思います。朝永振一郎の詩「科学の花」にあるように「よく観察してたしかめ、そして考えること」の重要性を感じている方は私だけではないと確信しています。

日本数学会のあゆみ

江戸時代に日本で独自の発展をした和算の実力を背景に、日本人は明治時代の初めに新しい数学を容易に吸収し消化したことが知られています。

日本数学会の前身である東京数学会社の創立者達は、時代の息吹の中で諸学の基礎としての数学が重要であることを認識し、欧風の数学の導入に努力しました。それから140年、日本における数学研究は目覚ましく発展し、3人のフィールズ賞受賞者、ガウス賞受賞者、およびチャーン賞受賞者を輩出するなど、今日では確固とした国際的評価が確立しています。

●会員数



さて、数学会の活動のなかでもとりわけ重要なものとしてあげられるのは、分野をこえてお互いの研究の情報を交換するための総合分科会(学会)の開催、欧文、邦文の雑誌などをはじめとする出版事業、数学の発展に寄与のあった方々を広く世に知らしめる顕彰事業などが挙げられます。また、国際社会、欧米やとりわけ東アジアとの関係において、日本の果たすべき役割も刻々変化しつつあり、そういったなかでの国際交流も大きな事業の一つとなりつつあります。これらの事業は数学会が力を入れてきたことですが、今後も持続可能であり続けるような方法で次の世代への橋渡しをすることこそ、いまなすべきことと思います。

当会において、世の中が変化しても変わらないのが、先輩たちから脈々と受け継がれている相互扶助の精神です。数学会の種々の活動、例えば会場の設定や雑誌のレフェリーなど、数学会のほとんどの活動は会員の皆様方のボランティアな力によって支えられています。数学会の活動に協力されております方々に於かれましては、この場をお借りしまして、心からの感謝と敬意の念を顕したいと存じます。これまで築かれてきました先人たちの精神を受け継ぎ、継続していくために、微力ながらも尽力いたす所存ですので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



故 小平邦彦 氏



広中平祐 氏



森重文 氏



故 伊藤清 氏



故 加藤敏夫 氏



柏原正樹 氏



刊 行 物

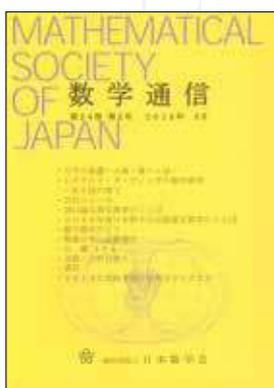


「数学」

「数学」は、日本数学会設立の翌年、1947年4月創刊の邦文誌で、現在は年4回発行され、岩波書店から発売されています。主に日本数学会会員による、数学に関する論説、企画記事、書評、学界ニュースなどを掲載し、会員には無償配布されています。論説は、専門外の人々にも楽しめ、理解できることを目的にした解説記事として書かれており、その多くは英訳され、アメリカ数学会から「Sugaku Expositions」という雑誌名で発行されています。「数学」の記事は独立行政法人科学技術振興機構(JST)によって順次電子化・無償公開されています。なお、電子版については下記URLを参照下さい。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/sugaku/-char/ja/>

※電子版の作成および公開は岩波書店の承諾を得て行っています。



「数学通信」

「数学通信」は日本数学会創立50周年を機に1996年に創刊された会員向けの季刊情報誌です。定期的な記事としては、会報のほか、巻頭言、数学会が主催した市民講演会等の記録、授賞報告、委員会・懇談会報告、会員ニュース、数学教室だより、支部・分科会便り、書評などの欄があります。また、その時々会員にとって有益な話題を特集記事として取り上げています。このように「数学通信」は、会員への情報提供あるいは会員相互の情報交換の場としての役割を果たしています。



「Journal of the Mathematical Society of Japan」

日本数学会欧文誌 Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ) は、1948年に創刊された純粋数学の総合誌で、質の高い国際学術誌として数学コミュニティに貢献しています。JMSJ は日本数学会の機関誌ですが、会員・非会員を問わず国内外から投稿される研究論文を、第一線の専門家による厳格な査読を経て掲載しており、わが国を代表する数学誌として国際的に広く認知されています。季刊誌で年4回発行され、オンライン公開はProject Euclid およびJ-STAGEで行っています。

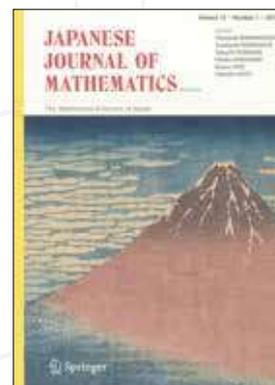
「Advanced Studies in Pure Mathematics」

Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM)は1983年に創刊され、日本数学会によって主催された国際研究集会など重要な研究集会の報告論文集として、現在、日本数学会によって編集、刊行されています。ASPMは、国際研究集会で発表された研究成果に関する研究論文のみならず、理論の創設者によって著わされたサーベイ的な論文なども掲載しており、これから研究を始める若手研究者や、そのテーマの最新の研究成果に関心のある他分野の専門家にとっても、貴重なレファランズとなっています。海外では、アメリカ数学会とWorld Scientific Publishing社によっても販売されており、Project Euclidで電子版を公開しています。2019年6月の時点で80巻が刊行されています。



「Japanese Journal of Mathematics」

1924年創刊のJapanese Journal of Mathematics (JJM;日本数学誌)は、継続されて刊行されている日本の数学欧文誌の中で最古のものです。日本数学会は、JJMの第3シリーズの創刊にあたり、JJMを「創造性に満ちた研究総説に特化した、権威ある学術誌」として位置づけ、2006年4月に刊行を開始いたしました。JJMに投稿された研究総説論文はすべて専門家によって査読され、その後掲載が決定されます。高木レクチャーをもとに書き下ろしされた研究総説論文の最終版も査読後JJMに掲載されます。JJMの出版は日本数学会とSpringer社の協力でなされています。JJMのホームページではアブストラクトの和訳も掲載しています。なお、第1,2シリーズ(1924-1974, 1975-2005)はJSTのJournal@rchiveによって電子化・無償公開されています。



「MSJ Memoirs・数学メモアール」

数学メモアールには、英文と和文と、二つのシリーズがあります。英文シリーズでは、大学院テキストに使用するための講義録や、まとまった一つのテーマについての長編研究論文を刊行しています。和文メモアールは、大学院生をはじめとする若い研究者に、数学の新しい潮流をわかりやすく紹介するモノグラフです。両シリーズとも、純粋数学・応用数学全般を取り扱います。英文シリーズは海外ではWorld Scientific Publishing社によって販売され、Project Euclidで電子版が公開されています。



学 術 的 会 合

高木レクチャー

高木貞治先生(1875-1960)のお名前を冠した「高木レクチャー」が、2006年に創設されました。

「高木レクチャー」は、毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。

高木レクチャーのブックレットは当日に配布され、それをもとに執筆された研究総説論文が、査読を経た後、JJMに掲載されます。



Prof. A. M. Vershik
第15回高木レクチャー



Prof. P. Scholze
第14回高木レクチャー

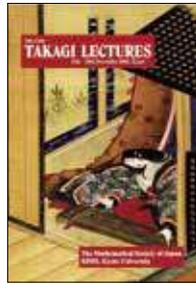


Prof. A. Venkatesh
第14回高木レクチャー



JJM (日本数学誌)のロゴ

このロゴは2005年のJJM存続の危機のときに、当時の理事であった小林俊行氏がJJMの再建の任にあたって、自らデザインしたものです。大正時代から連綿と続くJJMの伝統を尊重し、さらに、日本から新しい数学を発信するという願いがこめられています。JJMの文字でかたどった富士山は日本発信を象徴しています。



高木ブックレット

年会・秋季総合分科会

毎年、春と秋に日本数学会は大会を開きます。約1500名の数学者が集い、研究の発表や討論を行うものです。大会では、日本数学会賞春季賞、同秋季賞、同建部賢弘賞、関孝和賞、出版賞などの受賞者の発表や授賞式が行われ、総合講演・企画特別講演・分科会の特別講演など、数学の動きを知る上で欠かせない重要な講演も行われます。

大会の際には、市民を対象とする、数学の啓蒙的講演会「市民講演会」や、数学と数学教育の役割について意見を交換する「シンポジウム」が開かれます。

日本数学会季期研究所 (MSJ-SI)

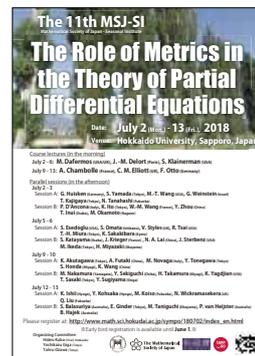
日本数学会は、国際交流や国際研究集会の活動を行っています。

このような活動の一環として、第一線の国外の研究者を招いて日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) を2006年まで年1回開催しました。2008年からは、これを拡張して発展的に引き継ぎ、日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) を開催しています。

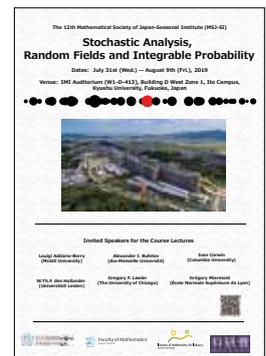
とくに、アジアの中の日本という視点から、アジア諸国の数学者との関係を重視し、積極的な交流を推進しています。



第9回(左)、第10回(右) MSJ-SIでの講演の様子



第11回MSJ-SI 2018年7月2日～7月13日
The Role of Metrics in the Theory of Partial Differential Equations
北海道大学



第12回MSJ-SI 2019年7月31日～8月9日
Stochastic Analysis, Random Fields and Integrable Probability
～確率解析、確率場と可積分確率～
九州大学

市民との接点

市民講演会

日本数学会では、春の年会と秋季総合分科会の際、会場校の近くで、高校生、大学生、教師、会社員など一般の市民の方に、数学の楽しさを実感していただくための、講演会「市民講演会」を開催しています。

以下のウェブページより、過去の講演の講演記録とビデオが利用できます。

URL <http://mathsoc.jp/outreach/shimin-index.html>

都合で利用可能でないものもあります。



社会連携協議会の活動

日本数学会では、産官学が協働して、数学若手研究者の社会への輩出を目的とした社会連携協議会を2014年に設置しております。おもな活動は、「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会」、「数学・数理科学のためのキャリアパスセミナー」です。

研究交流会は、若手研究者と企業とのマッチングを進めることを目的として、日本数学会主催、日本応用数理学会、統計数理研究所「数学協働プログラム」、東京大学数物フロンティア・リーディング大学院、明治大学先端数理科学インスティテュート・先端数理科学研究科の共催、日本経済団体連合会の後援により、20社を超える企業と国内の数学・数理科学系大学機関の協力の下で、基調講演、若手研究者のポスター発表、若手研究者が企業ブースを訪問する個別交流を行ってきました。2017年からは九州大学マス・フォア・インダストリ研究所が幹事機関として行う文部科学省委託事業「数学アドバンスイノベーションプラットフォーム (AIMaP)」の支援も受けて行われています。また、2019年からは経済産業省からの後援もいただきました。

キャリアパスセミナーは、数学と他分野との融合研究教育を紹介することを目的として日本数学会年会で行っています。2018年は東京大学、2019年は東京工業大学で行いました。



顕彰事業

日本数学会賞 小平邦彦賞

日本数学会は2017年に、故岡田敬夫氏からの寄付金を基金として「日本数学会賞小平邦彦賞」を創設しました。これは、生涯にわたって数学に関する優れた業績をあげた当学会の研究者を顕彰することを目的とし、第1回は4名の研究者に授与しました。



石井仁司氏
「完全非線形偏微分方程式の粘性解理論」



砂田利一氏
「幾何解析及び関連する諸分野の研究」



藤田宏氏
「非線形偏微分方程式に対する関数解析学的手法の研究」



森重文氏
「代数多様体の双有理分類」

日本数学会賞 春季賞・秋季賞

日本数学会は1973年に、故彌永昌吉氏からの寄付金を基金として「日本数学会彌永賞」を設け、1987年まで毎年1名、重要な研究成果をあげた当学会の若手研究者に賞を授与してきました。1987年秋に、故秋月康夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金を加えて新たに、日本数学会賞を創出し、従来の彌永賞の趣旨を継承する「春季賞」と、特に優れた業績をあげた当学会の研究者に授与する「秋季賞」を設けました。

その後、故木村俊房氏、故松村英之氏、故丸山滋彌氏、故加藤敏夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金も新たに加わっています。



●2017年度
秋季賞受賞者
荒川知幸氏
「W-代数の表現論」



●2018年度
春季賞受賞者
木田良才氏
「離散群とエルゴード理論の研究」



●2018年度
秋季賞受賞者
長田博文氏
「長距離相互作用を持つ無限粒子系の確率力学とその剛性の研究」



●2019年度
春季賞受賞者
前川泰則氏
「流体力学の数学解析の展開」

日本数学会代数学賞

広い意味での代数学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2018年度受賞者(左から)
佐藤周友氏、内藤聡氏、日比孝之氏



●2019年度受賞者(左から)
小林真一氏、高木俊輔氏

日本数学会解析学賞

2002年には「日本数学会解析学賞」が設けられました。この賞は、広い意味での解析学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2017年度受賞者(左から)
柴田徹太郎氏、竹井義次氏、竹田雅好氏



●2018年度受賞者(左から)
川島秀一氏、今野紀雄氏、宮地晶彦氏

日本数学会幾何学賞

日本数学会幾何学賞は、1987年に幾何学研究者有志からの寄付金を基金として設けられたもので、広い意味での幾何学の発展へ貢献した研究者に授与される賞です。



●2017年度受賞者(左から)
小林治氏、作間誠氏

●2018年度受賞者(左から)
尾高悠志氏、本多正平氏

日本数学会賞 建部賢弘特別賞／奨励賞

建部賢弘(1664-1739)は、関孝和の高弟で、独自で三角関数表を作成した人物です。1996年の50周年を記念し、日本数学会賞建部賢弘賞が創設されました。建部賢弘特別賞・奨励賞の2つの賞に分けられ、特別賞は若くして優れた業績をあげられた人の顕彰を、奨励賞は優れた業績で数学研究を始めた若い人達の奨励をそれぞれ目的として制定されたものです。



- 2017年度受賞者
(前列 左から)
奥田隆幸氏(特別賞)、水谷治哉氏(特別賞)、荒野悠輝氏(奨励賞)
(後列 左から)
石田祥子氏(奨励賞)、金光秋博氏(奨励賞)、星野壮登氏(奨励賞)、
三浦達哉氏(奨励賞)
(右上 上から)
岩濑司氏(特別賞)、楠岡誠一郎氏(特別賞)、佐野昂迪氏(奨励賞)



- 2018年度受賞者(特別賞)
(左から)
藤嶋陽平氏、前田昌也氏、渡邊究氏
(右上)
Johannes Jaerisch氏



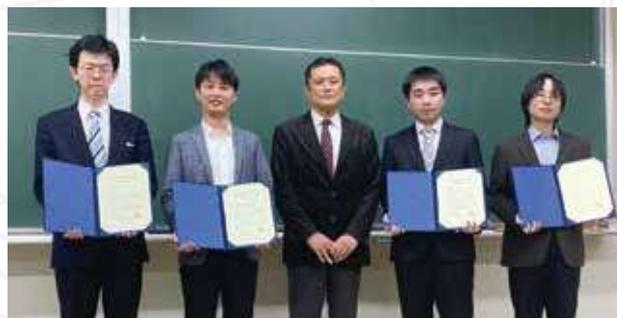
- 2018年度受賞者(奨励賞)
(前列 左から)
大森源城氏、小池貴之氏、高橋仁氏
(後列 左から)
中島秀太氏、中村勇哉氏
(右上)
跡部発氏

日本数学会応用数学研究奨励賞

日本数学会応用数学研究奨励賞は応用数学分野における研究を奨励し、分野全体の交流・発展を図ることを目的として、2013年9月に日本数学会において設立されました。応用数学に関連する分野において優れた業績をあげた39歳以下の若手研究者に対して、その業績を顕彰するために与える賞です。



- 2017年度受賞者
(左から)内海晋弥氏、栗原大武氏、関坂歩幹氏、中野直人氏



- 2018年度受賞者(中本敦浩氏【左から3番目】と共に)
(左から)山本健氏、井元佑介氏、伊藤涼氏、宇田智紀氏

日本数学会関孝和賞

関孝和(? -1708)は、関流数学の創始者であり、鎖国時代に日本独自の数学を発達させた人物です。日本数学会関孝和賞は、個人または団体を対象として長年にわたり数学の研究業績以外の功績によって数学の発展に寄与し、それを通して学術文化の向上に特に顕著な貢献をした個人または団体に対しこれを授与するものです。

関孝和にゆかりのある藤岡市から、賞状と関孝和のブロンズ像が贈られます。



●これまでの受賞者(左から)

1995年 故 谷口豊三郎氏
1996年 Prof.F.Hirzebruch
2006年 The Japan-U.S. Mathematics Institute
2007年 Institut des Hautes Études Scientifiques

日本数学会出版賞

2004年度には「日本数学会出版賞」が設けられました。この賞は著作活動により数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた個人または団体を顕彰する賞です。

●2018年度日本数学会出版賞

遠藤寛子氏「算数少女」
奥村晴彦氏、黒木裕介氏「LaTeX2e美文書作成入門」

●2019年度日本数学会出版賞

数学の現在(斎藤毅氏、河東泰之氏、小林俊行氏 編)
Tokyo Journal of Mathematics
本間龍雄氏

JMSJ 論文賞

JMSJ論文賞(The JMSJ Outstanding Paper Prize)は、卓越した論文の発表による数学への貢献を顕彰するため日本数学会が2010年に新たに設けた賞です。表彰対象は、授賞年前年の Journal of the Mathematical Society of Japan に掲載された論文のうち、特に優れたもの(3編以内)の著者に贈られます。著者の国籍や、論文が単著・共著であるかは問わず、原則として春の年会時に授賞式を行っています。

●2018年JMSJ論文賞

69巻2号[On sharp bilinear Strichartz estimates on Ozawa-Tsutsumi type]
By Jonathan Bennett氏、Neal Bez氏、Chris Jeavons氏、Nikolaos Pattakos氏
69巻3号[Modules over quantized coordinate algebras and PBW-bases]
By 谷崎俊之氏
69巻4号[Maximal regularity of the time-periodic Stokes operator on unbounded and bounded domains]
By 前川泰則氏、Jonas Sauer氏

●2019年JMSJ論文賞

70巻2号[Exponential mixing for generic volume-preserving Anosov flows in dimension three]
By 辻井正人氏
70巻3号[Elliptic fibrations on K3 surfaces and Salem numbers of maximal degree]
By Xun Yu氏
70巻4号[Volume minimization and conformally Kähler, Einstein-Maxwell geometry]
By 二木昭人氏、小野肇氏

日本数学会の概要

本会の会員は数学の研究者ばかりではなく、教育者、学生などの数学に興味を持つ方々です。また、賛助会員には本会の事業に援助をして下さる法人に加入いただいております。2019年度の会費は次の通りです。

正会員会費…年額18,000円

賛助会員会費…一口年額30,000円

学生や70歳以上の会員には会費の割引制度がございます。

学生割引適用(在学証明書送付者)…年額9,000円

高齢会費適用(在会10年以上で年齢70歳以上、要申込)…年額12,000円

上記のほか、在会30年以上で年齢75歳以上の会員に対し会費を免除する名誉会員制度、在会25年以上で年齢65歳以上の会員に対する終身会員制度がございます。

会員には邦文誌「数学」(季刊)及び「数学通信」(季刊)を配布しています。また名誉会員を除く会員には希望により欧文誌「Journal of the Mathematical Society of Japan」の冊子体を配布しております(賛助会員には「数学」、「数学通信」及び「Journal of the Mathematical Society of Japan」の冊子体を配布しております)。

外国数学会との交換会員制度があり、現在アメリカ数学会、フランス数学会、ニュージーランド数学会、韓国数学会、ロンドン数学会、ドイツ数学会、オーストラリア数学会、スペイン数学会、チュニジア数学会、中華民国数学会、クロアチア数学会及びヨーロッパ数学会と交換協定を結んでいます。会費等詳細につきましては各国数学会へお問い合わせください。

名称 一般社団法人/日本数学会(The Mathematical Society of Japan)

事務局 〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 tel.03-3835-3483
(34-8, Taito 1-chome, Taito-ku Tokyo, 110-0016, Japan)

URL <http://mathsoc.jp/>

目的 数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部面とも協力して
学術文化の向上発展に寄与することを目的とする

事業

1.学術的会合の開催	6. 数学研究の交流及び数学の研究成果の普及
2.学会誌及び図書の刊行	7. 社会における数学基盤の整備
3.数学に関する図書及び雑誌の収集整備	8. 数学の発展及び普及のための調査・研究
4.数学研究の奨励及び数学に関する業績の顕彰	9. 国内外の関連学会、諸団体との連絡及び協力
5.数学研究者の育成	10. その他目的を達成するために必要な事業

学術的会合の予定(詳細は本会ホームページ等でご確認ください)

- 2019年度秋季総合分科会
2019年9月17日(火)～9月20日(金)
金沢大学
- 第24回高木レクチャー
2019年12月8日(日)
- 2020年度年会
2020年3月16日(月)～3月19日(木)
日本大学理工学部
- 2020年度秋季総合分科会
熊本大学
- 2020年度高木レクチャー 春と秋に開催予定



事務局所在地

蔵前橋通り南側で、台東一丁目交差点から、鳥越一丁目の間にあります。

●交通アクセス

JR線

秋葉原駅から徒歩約10分

御徒町駅から徒歩約15分

東京メトロ

日比谷線秋葉原駅から徒歩約8分

日比谷線御徒町駅から徒歩約10分

銀座線末広町駅から徒歩約8分

(末広町駅から蔵前橋通りを東の鳥越神社の方向に)

都営地下鉄

大江戸線新御徒町駅から徒歩約7～8分

(駅から南へ竹町公園を経て蔵前橋通りへ)

日本数学会では、理事会を中心に日本における数学にかかわる諸問題を検討し、時に応じ声明を出しています。数学会が出した声明は上記の数学会サイト内のURL (<http://mathsoc.jp/proclaim/>) から参照できます。